

苦境、不安、怒り、期待

堰を切ったように次々と

大平よしのぶ前衆議院議員（県コロナ対策本部長）は25日、党中央が作成した「コロナQ&A」パンフを持って中区八丁堀の事務所周辺の飲食店など5店舗に伺い、話を聞きました。

大平よしのぶ前衆議院議員
（県コロナ対策本部長）



話を聞く大平喜信前衆議院議員（4月25日）

コロナQ&Aパンフ を持って訪問

●お好み焼き屋

テイクアウトのみにきりかえ、時間短縮をして営業。普段はいつも長蛇の列ができるほどの人気店ですが、3月半ばから県外や海外のお客さんがほぼゼロとなり売上も大幅減に。「バイトの人たちもなんとか救ってあげたいと思うがどうしたらいいか」と話す店長。雇用調整助成金や県の協力金などの紹介をしパンフを渡しました。

●海鮮丼専門店

店長は「家賃や駐車場代だけで20数万円。蓄えを取り崩しながらやっているが、いつまで持つか…」と話します。国の持続化給付金は売上が前年比50%以

下の店が対象でこの店は対象外とのこと。しかし新しい人を雇っていて経費を引いた利益でみれば大きく減っている（50%以下に）ので対象にしてほしいと訴えます。

●焼き肉店

店長は怒り心頭でした。「今の政治にはまったく期待も信頼できない。まず交通費（※文書通信交通滞在費のこと）や政党助成金をもらうのをやめたらどうか。その場しのぎで自分のことばかりじゃないか」と。「共産党はこうやってコツコツとわしらの声を聞いてくれるのがすばらしい。もう日本の政治は自民党と共産党だけでええ」とも。

訪問はどこでも歓迎され、堰を切ったようにたくさん話されます。感染防止の対策をしっかりとこないながら、今後もスポーツ・映画関係者、児童虐待の相談センターなどから話を伺うことにしています。

じゃけえ！
日本共産党
大平喜信Twitter
LIVE配信中
https://twitter.com/tekutaku_diary

